

社外取締役からのメッセージ

会社法を研究する学者として 目指すべき取締役会の姿を追求し 当社に落とし込んでいきます

■ 就任から5年。取締役会も会社への期待度も変化

2014年に独立委員会委員に就任したのが、私と当社との関わりの始まりでした。その後、2019年から監査役を2年務め、2021年に社外取締役の任をいただきました。

日頃は、日本大学法学部で、商法、特に会社法や保険法など、会社に関する法律について研究をしていますので、社外取締役としても、主に法学的な観点からESGやコンプライアンス、リスク管理などへの意見をもって臨んでいます。

当社はBtoBの取引をしている会社ですので、就任前には詳しい事業内容を把握しておりませんが、事前に事業内容をていねいに説明していただき、また就任後には、製造所見学などの機会もいただきました。

経営会議の内容などは、常に経緯も含めて説明を受けており、確認や質問に対しても適宜時間をとって説明の場を設けていただいておりますので、状況を十分に理解したうえで取締役会に参加することができています。

取締役会の雰囲気は、私が役員になってからの5年間でも、だいぶ変わってきているように感じます。私が就任した頃から積極的に社外役員を登用し、外部視点での声も取り入れられるよう、活発な議論が行われています。もちろん、女性だから発言しにくいという雰囲気は感じたことはありません。

2024年に社名を変えたことで、株主の方々からの見え方もよい方向に変わってきている、と感じています。先般の株主総会で「インキ事業だけでなく新しい分野に向かっていくということですね?」とご質問があったときに、社長も「覚悟を示しています」と答えていらっしゃいました。今後への期待を込めた質問であったと私は受け止めましたし、応援をいただいているような、充実した株主総会だったと思います。

■ 社会貢献の視点を評価。さらに期待すること

企業の社会的責任として雇用の創出と維持がありますが、当社の離職率が低い点は、誇れることのひとつだと思っています。また、モノづくりの際の視点が、企業文化の体現であり、社会に貢献する姿勢を持って事業に取り組んでいる点を、私は高く評価しています。加えて、ステークホルダーとの対話も活発化していると感じています。今後も機関投資家向けの



artience株式会社
独立社外取締役
小野寺 千世

説明会や、個人投資家向けの機会も積極的につくっていくとお話を伺っています。

一方で、経営課題についてですが、当社はさまざまな経営指標を持って経営を行っていますが、それぞれの数値にはもっとこだわらべきだと思いますし、スピード感をもって対応するという姿勢が必須ではないかと感じています。

当社は「人間尊重の経営」を経営哲学としていますが、「人的資本を最大限に活かす仕組み」という観点からは、さらに追求できる部分はあると思っています。それぞれの世代で得意な部分が違いますので、世代間の価値観をすり合わせることも必要ですし、そうすることが当社の人的資本の最大化につながる一つの方法と考えます。

■ 自身の専門分野を当社に落とし込むことが使命

私自身を振り返ると、海外の事業会社まで目が行き届いているのか、という反省があります。当社グループはグローバルに事業活動を展開しており、近時、海外事業への注目も集まっていますので、海外のグループ会社も含めて広く見ていくことが、グループ本社の役員としてのあるべき姿です。今後はより一層、視野を広げて、また、国内外のバランスを意識して見ていかなければと考えています。

私は会社法を研究する学者ですので、よりよい会社の姿、あり方を考察する立場にあります。透明性の高い経営や責任のある意思決定、あるいは社会貢献、ステークホルダーとの対話など、目指すべき取締役会の姿を追求しています。会社の理念的なあり方を当社に落とし込むこと、取締役会でそういう意識を共有していきたいと思っています。